（大正十四年十二月一日 第三種郵便物認可）

平新報

發行日毎月三回 五ノ日發行
編輯兼發行印刷人 山野邊庄吉
發行所 福島縣平町南町七七 平新報社
廣告料五號十二字一行一回五十錢 場所指定倍增
送料共定價一部金十錢

# 適時適所に加工して人格の建造に進め

## 平沼博士講演の節々

磐城中學校では入山採炭に講演に來たりし元早大學長平沼淑郎博士を招いて去る十一日午後一時より同校講堂に於て全生徒のため一場の講演をうけた、左は博士その講演の節節である。

◆現時の學生諸君は習字をおろそかにして居る樣である、英語なり實社會に出であまり要をなさぬ事であるがこれ皆人格の建造のためである、卽ち他山の石を以つて吾が玉を研くべきであるを敎へて居るのである。それはそれとして良藥は口に苦しとか此處に學生諸君の共通の欲點をあげて御參考にして見たいと思ふ。

◆自習が足らぬ事

これが一大欠點であらふと思ふ、御馳走を竝べられて食ひ方を知らぬのである食ふと食はざるとは諸君の權利である、先生に箸をとつて貰はねば食ふ事出來ぬ樣ではいかぬ『幼稚園兒や小學兒童にあらざる限り』

◆これを實生活に例して見れば即ち吾々は天産物を集める事「原始生産業」をなす、然して加工して人間の用をなすが、それは適當な時機に適當な場所に持ち運ばねば用をなさぬものである……。猫の前に小バンを置いたとて猫を滿足さすべきものでない、鰹節なら猫は我が意を得たと思つて居るであらふ……。

◆天産物をとつて加工しそれを利用するは商業である學問の道も同じく試驗勉强『クラーミング』であつてはならぬ、修養は自ら修める即ち加工である。

◆思想問題でも然りで如何にマルクスとか何とか申しても果して此の原理思想が我が現時の日本國に適するや否や……を考いねばならぬ、讀書を廣く求めるのは良い……が雷同してはならぬ。

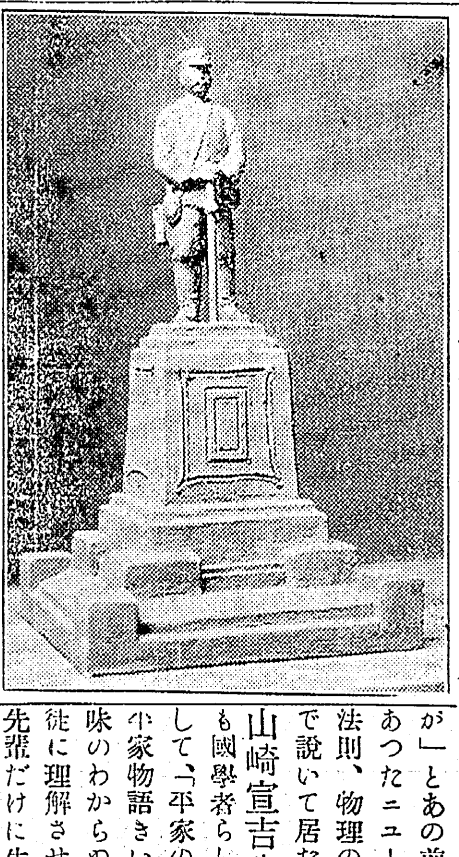
◆私の體驗から割り出してどうも在學生、卒業後ともに自習力が足らぬと思ふ、小學校時代は受身である專問にやるのは大學とか專問學校である。その中間に在るのは即ち諸君中學生である、大いに想像に力めねばならぬ、模擬許りではいかぬ將來に實社會に學びて應用せねばならぬのである要するに何學課によらず人格の建造「キャラクターメキング」に向つて突進し實社會に出で應用すべき修養が專一である事を常に心懸けて欲しい。「文責記者に在り、講演途中よりの聽取なればその要を得ず、その節々をものしたに過ぎぬ、博士の聲量ある雄辯振は堂に入つたもので千余の磐中建兒に感興 與へた。」

# 大越中佐顯彰

## 銅像建設費 主なる寄金者

元磐中校長植竹源太郎氏の熱走により近々建祭されんとする、大越中佐銅像建設費の寄附拂込みの主なるものを聞くに、

金貳拾圓 第二師團長 井上中將
△金貳百圓也 山崎與三郎
△金貳百圓也 諸橋久太郎
△金貳百圓也 馬目太吉
△金五百圓也 「慈善音樂會純益金」 上原眞佐喜
△金壹百圓也 前田子爵



植竹源太郎先生

# 磐炭爭議後に於ける

## 地方政治運動への一考察

在上遠野鄕 大野生

「前承」

私は爭議の地方の政治運動上に及ぼした一波動に就いて、これを鳥瞰的に指摘して見たいのであるが、其前に爭議其ものの起因に就いて少し具体的に事質を以て實證して見る。先づ、勞働組合に對して振りかざされた、爭議への機運から取りかゝることにしやふ。勞働組合が爭議をなすに到つた機運に二種ある。その第一は、資本家側の組合もしくは組合員に下した勞働不安にあり、その第二は、勞働組合其ものが政治的目的を遂するためには其前に於てもつと自由な組合運動を起こさねばならなかつたのである。所で其第一は別問題として、其第二に就いても少しくはしく述べれば、表面に於ては坑夫の賃銀又は勞働時間の問題に就いて主張したものであたが、然し其實は、それ等の團體的勞働取引に於ける武器としてではなく寧ろ勞働組合がその政治的目的を達するための其準備として所謂の直接行動を採るに至たものと見られるのである。

（二）

私は爭議を目して勞働陣營内に於ける方意が、むしろ暴力的より平和的に根據を置いてなされたものと見るべきであると言つて置いた、これは勿論或は見方ではないかも知れぬが然し何故か知らぬが私にはそふ見受けられるのである。所で此政治的目的を有した爭議であつたと見られる限り其解決に於て嘉表面的には爭議團そのものは自分自らを悲境に陷入れたの感もあつたけれども然し其内面に於ては、新らしい精神に新らしい政策を以て、これに當るにあらずんば、到底これを爲し得ざることを悟るに到らしめたのではあるまいかと思はれるのである。そしてこの事はもとより爭議の指導者の方意にあつた事であらふ筈なのである。勞働運動が斯くの如く政治的目的に其陣營が變つて來てるといふことは、決して資本家に對する屈伏を意味するのではなくむしろ、今後この階級闘爭は政治の分野に於ても益々激しく戰はるであらふことが想像されるのである。即ち勞働組合の力は將來政治に集中せられるであらふことが明白になつて來たのである。

（三）

此處で私は斯ふした傾向を持つて起こされた爭議 斯ふした傾向に進むであらふ一分界線を畫えた、過般の磐炭爭議は果して地方的政治運動にどんな波動を及ぼすか、また及ぼすものであるかといふことの本論に入ることにする。

以上述べた通り過般の爭議は内面的陣營に於ては充分に、政治的分野への前進を方意に、はらんでゐたものであり、現在も未來もそふであることには變りはないであらふ筈なのである。

然しこの傾向が果して地方的政治運動に對しては、如何なる綜合的形相を形作るに至るかは將來の宿題でなければならぬが、少なくとも、磐城地方の炭坑勞働をして、今後力強く無産政治運動への第一歩を歩み出さしめふ其歩みの端を切つたものと見うけられるのである。それかあらぬか現に無産政治運動の機運は、磐城の地方にも擡頭し次いで今や一般無産者の政治意識の上にまで一の政治的一革新をさし招いでゐるのであつて此後の政治運動は一歩斯ふした一界線ゝ起りと共に無産政治運動に傾くものと見られるのである。

「完」

## 述懷

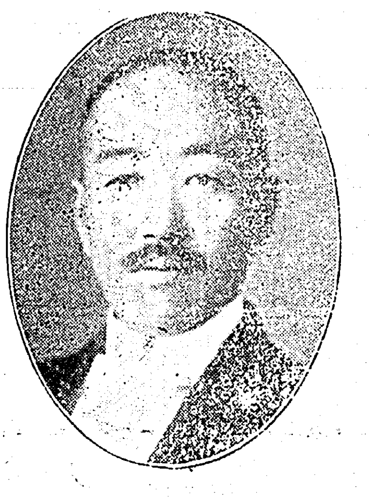
元和園主

ますらをを、まつが岡に
と立寄れば
年ふる雨に袖はそほぢぬ

# 磐中同窓動靜〔一〕

## 磐中同窓拾八回生の追憶

「鐵冠面投」



（桐谷文平氏）

**桐谷校長** 八面玲瓏。識見卓越。卒業生にあたふる告辭はそこいらの校長一寸くびをひねつても出來ない藝當。金鵄勳章に燕尾服。何んでもかんでも『萬歳』でまとめるあたりは垢ぬけしてましたよ。

**藤本先生** 小さい躰軀に鐵ブチ眼鏡。「只今から校長が」とあの前座が愛嬌があつたニュートンの三大法則、物理の難解を愛嬌で説いて居た。

**山崎宣吉先生** 如何にも國學者らしい聲色を出して「平家の一族は……」平家物語きいて居ると意味のわからぬ内に聲で生徒に理解させる。先輩だけに生徒に親切だつた然し、たしか俺達の在學時代に病氣で一時罷められたと記憶するが、また古巣で達者で教鞭をとられて居るそうな先生の御自愛を祈上ます。

**北條猛次郎先生** 出雲の大國主命そつくりな顏をして片手に乘馬演習用?の鞭みたいなものをもつて奇麗に書くブラックボールドのあの字は先生郷國水戸ときくからにはありや先生たしか藤湖流でしたらふネ……講じたものは東洋史西洋史就中「秦の始皇帝、姿三千人」と叫んで微笑……楊貴妃の古事をきかして苦笑

**遠藤平太先生** 山形訛のあの辯舌然しあの辯舌が磐城化したならば、先生の生命は消失るに違ない。もう一つは即席の修身材料「わたしだ友達の」と乃木さんがだ私兵隊だ、ときにもう一度先生の講義をきいて世智辛い娑婆から解脱したいと思ひます。修身の講義の五分間の臍下丹田靜座法と、教育勅語の暗誦今でも先生はまだあの式ですか在學生諸君。——

**平賀先生** 眞面目で親切で、ムスットして、愛嬌があつた。ことめんどうな事件に出馬して圓滿に解決する。あれで桐谷校長三分の一の辯がたつて柔道尻を一寸ひつこめたらあれこそ天下の名校長だらう。「青羅古をとざして夕景今を照らすの景眞に詩景」と蓄膿症の鼻聲がしのばれる然し磐中柔道界に對するの努力素人ながら感謝〳〵

**松本午次郎先生** 國漢の先生でアメリカ歸りの紅顏の美教師、インプレッションは一茶の句。今は郡山の女學校長とか、先生は矢張り磐中向ではたしかなかつたでせう。

**伊古見郁郎先生** 當世流行の安來節の本場で生れたそうな。たしか遠足でお寺の御馳走酒にほろよい氣嫌で「春は〳〵春は櫻さく向島」俺は高師のボートのチャンだと吹いたあたりはよい先生にしろ、衆人環視の前で「何某代數劣」あいつあ少しいたかつたよ、でも先生あの頃はお若くいらしつたからな——。

**奥山雁藏先生** 白髮三千丈さいふ支那の古言も先生の鬚位のところだつたら、可愛いやさしい聲を出して「出師表を讀んでなかないものはありや人ぢやありません」あれが康熙字典の生字引の生代りだつたらう

**中根松次郎先生** 紺の詰襟の洋服にフケを一寸も積らして平然とA十Bはとあの聲未だ十年一日ときく怒る事が大きらい。あれが生徒に受のよかつた骨子らしかつた。

**北郷平次郎先生** 陸軍大尉の通常服で「三番規準左散れ」といふあの號令が氣に入つた。世が世であつたらもう聯隊長だらうに。只あの號令の音色だけは一寸、そこいらの聯隊ではきかれぬ好音いくら軍事教官とやらがまいつても、いくら陸軍の典範令が改正しても兵隊を叱咤するあの號音の妙味のある限り永久に磐中の軍神たらむことを。

**森合仙太郎先生** 枯木の様な畫家らしい風姿、神經質は「我が修養」の産物であり生命であつた。帝展に一度も入選せぬと、むやみやたらに生徒に口説くあの時間がなかつたら圖画はよかつたナ！

**木村先生** 新任の挨拶に「自分は岩手縣平民」と鐵大縁の眼鏡は正方形の面にのせ。六圓五拾錢位の腕時計を〔ちよいちよい〕みながら生徒を煙にまいたあの光景、だが先生は、豪傑講義で事面白く一時間を終へさせて駄辯つた時代が花だつたらしい。

× ×

終りに臨んで一言申上ます鐵冠面は決して先生を評價した積りではない只昔の追憶を平新報を通してありのまゝにその當時の先生の追憶にすぎない諸先生ゆめゆめおはらたちあるまじ——

## 最近磐中 出身入學者

磐中より上級の學校へ入學せる最近の人々左の如くである。

十五年度諸學校入學者
滿州敎育專門學校『五年』
二七回 猪狩吉隆
陸軍士官學校『四年』
川瀬博
日本体育會体操學校
二五回 西山金長
豊嶋師範學校二部
二七回 大野常雄
青山師範學校二部
二七回 阿部廣司
日本齒科醫學專門學校
二七回 松本治郎
同 二四回 鈴木與一郎
横濱高等商業學校
二七回 星定三
福島師範二部
二四回 國府田巖
同 二六回 菜花利政
同 二七回 遠藤清秀
同 同 三瓶熈
同 同 金成勇夫
同 同 江尻濟
同 同 高木寛
同 二六回 松本政夫
同 同 吉田功
東京高等工業學校
二五回 吉田操
福島高等商業學校
二七回 大平秀之助
同 同 草野仁太郎
秋田高等商業學校
二六回 白土大三郎
商科大學専門部
二七回 星定三
水戸高等學校
二七回『文甲』 秋山將義
同 同 野田剛
同四年「理甲」 川瀬博三
同二七回「理甲」 草野織平
同 同 渡邊三郎
同二六回同 須藤積彌
東京美術學校西洋画科
松永隆
慶大豫科 二七回
岡本忠義
第二高等學校 二六回
「文甲」 草野四郎
同「文乙」 根本丈助
第三高等校學校同
「文乙」 大井川恭司
同同「文丙」 星野二郎
山形高等學校 二七回
「文甲」 村山七郎
新潟高等學校 二六回
「理乙」 山口哲
松本高等學校 二七回
「文乙」 鹿志村保二
弘前高等學校 二七回
「文乙」 白井武夫
東京音樂學校
ヴアヰオリン科
二五回 中野篤親
明治大學豫科 廿六回
永山條助
北海道帝大豫科 醫科
廿五回 山本五郎
弘前高校 廿六回
若松哲雄
北海道帝大豫科右同人
慈惠醫大豫科 廿六回
草野周一
同 谷口孝雄
「以上四月十一日迄の分」

## 大越貢醫學士 福島病院入り

近く建祭さるゝ大越中佐の長男貢氏は帝大吳病院助手として研究されて居つたが今回福島公立病院内科部長に就任されたと

磐崎村農會總代「當選」
磯上六太郎

入山採炭株式會社

湯本町
佐藤德兵衞

双葉郡大久村
助役 柳井義一

## 磐中同窓動靜

磐中同窓生活躍誌は目下材料蒐集中につき五月五日には刊行不可能につき遂號磐中同窓動靜として連載しそのうちを活躍誌に再錄する事としました、何卒同窓生諸君十二分の御便誼を與へ下さる事を御願ひします。

平新報社

磐中同窓會員
各位

## 聲明

自今壹ヶ年禁酒決行可仕誓約候
昭和貳年四月拾日
湯本町字三函一五〇
鯨岡潔

高久病院
◆……◇
第二病室增設
〔入院應需〕
平田町 電五一三番

平町南町
[illegible]醫院
電話一二九番

平新報の發展を贊援す、
平町
磐城病院
赤心堂病院
高久病院
松村病院

告ぐ
若し廣告にして掲載漏れ有らば本社宛御通知被度候
平新報社

磐 湯 城
溫泉旅館
松柏館
電話五番

平和節
製造販賣
鈴木道太郎商店
湯本驛前
◎最上鷄餌魚肉粉
羅災新築中

植田町
本町
森合歯科医院
森合芳男

植田町 電話一〇七
片岡醫院
慈惠醫學士
院長 片岡章

内科、小兒科、皮膚科
[illegible]名醫院
平町紺屋町
電話五〇七番
入院應需

平町一丁目

銘酒 王の井
釀造元
長瀨半五郎
福島縣石城郡玉川村

來ても觀やんせ磐城の平

# 櫻咲松ヶ岡

## 平消防組の努力に依り
## 灯の海と化した夜の公園
## 櫻花廣告燈、雪洞、提灯

「既報」全國的に著名となつた平松ヶ岡の櫻花は今や三分咲き十八、九、二十日は盛りとなるべく、本年は平消防組の犧牲的奔走に依つて例年より、より以上の廣告燈を集め一作十三日夜より點燈され、いやが上に松ヶ岡公園引いて新川端を美化せしめて居る。平松ヶ岡のこの頃の夜景は列車内よりながむるも一興、筆致の良くすべきに在らず百聞一見に如かずである。平消防組の努力によつて飾られた櫻花廣告燈の主なるものは左の如く尚ほ新田町は勿論各町内とも街飾りをなして迎客に萬善を力めて居る。

### 櫻花廣告燈

消防界の革命は町野式水管接手 五〇ケジョイント商會 日本自動車ハドソンポンプ 五〇ケ大正製麻の布ホースは代理店釜屋商店 三〇 トツカビン 蜂印ブドウ酒 ヤマト醬油株式會社 大同ランプ、マツダランプ 川北電氣會社 池田工業 サツポロビール ユニオンビール 福助足袋 小柳石鹸 トウヨー粉石鹸 三藤椿油 代理店山城屋商店 クラブおしろい代理店 大黒屋小間物店 ランラン

香油 關内油店 ヤマフル醬油とたひら正宗 山崎合名會社 磐城セメント會社 釜屋商店 磐城工業商會 關内藥舗 回効散 毒掃丸 會田時計店の竹内時計店 西村屋藥舗 大一屋商店の鶴の卵石鹸 三井呉服店 下總國成田円前大野屋旅館 湯本溫泉松柏館 山形屋 松本屋菓子店 以上は提灯 雪洞十個以上 以下總數二千燈に達す。

平藝妓組合 玉川や守さ子外七名 谷口喜多勇外七名 甲子や小玉外六名 三好家内光る外六名 久本内い久子外四名 山形家内小歌外一名 米京や秀吉外三名 竹の家や小つや外十四名 三島家内金助外六名 開花内花榮外六名 吉野や内長松外三名 湖月内小南外四名 仲家内壽美藏外三名 林家小六外五名 品澤内小光外六名 福清内秀奴外四名 眞佐の家内小しん外二名 橋家妻予外四名 榮家内榮外二名 ふみのや内雪佳外一名 藝妓連は提灯外特に雪洞に加盟せし藝妓は三島家八千代 竹の家小つや 品澤小光 吉野家長松 一寸平 つばめ 久本さよ子 三好家光る 甲子小玉 以下略す

### 平觀櫻五謠

一、平驛より車をはせば三スジの色めく新田町ショコ〳〵

一、來ても觀やんせ磐城の平櫻咲きます松ヶ岡

一、平良い所昔も今も尼子夜の月照りサユる

一、松ヶ岡より新川見れば深の月夜に二人連れ

一、夜の新川ほとりを行けば東榮ゆる五色街

### 鴨綠江節

一、都落ち泣いてあかして諸國をまはり平町にとをちついて人の情のよ溫たかさよ今は又涙の袖かはく……

一、平町驛を降りれば新田町、少し離れて南町新川邊を過ぎ行けば五色の花咲く鎌田町

---

## 多年行惱みつゝあつた
## 會田校長の建碑も
### 竣功の道程に入る

去る四月四日「舊三月三日午後二時より小名濱小學校同窓會を同校公會堂に於て開會す」「但し大正十二年以除初めての總會である」その總會と稱する會合は幹事外七八名なるは何の理由事情ありしや知る人ぞ知る兎に角副會長たる小野務平君が一流の議事進行に力め會長西山直三郎校長を推し會計報告終つて大正六年度來よりの懸案たる故會田校長の建碑問題を胸像建設の事として決定した。然し當時幹事の不注意に因る問題から議論百出のあつたは無理ならぬ事である、次に六日舊五日故會田校長胸像建設評議會として小學校に午后七時より開會し左の事項を議定して實行にとりかゝる事となつた。

一、竣功期日は本年九月迄
一、場所は校庭
一、費用は同窓會員より寄附金に寄る事
一、工事費豫算
　總額金壹千壹百圓
　内譯を開くに
　四百圓　銅像胸像一体
　二百圓　基礎及臺石
　二百圓　履石溢名銅板
　二百圓　除幕式費用
　一百圓　雜費
一、建設顧問　馬上幸太郎　藤井利譽、鈴木榮、松井秀英
一、建設評議員　小野龜次郎、小濱長太郎、松本德次郎、小野晋平、馬上德十郎、齊藤定次郎、福尾伊太郎
一、建設委員長　小野務平
一、同委員　同窓會幹事
　評議會有志

右の如くでかつて工事請負人石工が金員費消逃亡後行き惱みつゝあつた、故會田校長の建像問題もその完成の道程につく事となつたは嘉ぶべき事で恩師に報ゆる子弟の情は床しきものである。切に前車の轍を踏まざる樣十二分の注意を拂つて進工され寄附金等も一部少數有産者のみにせず、故校長の敎をうけた一般同窓生より募めるべきであらふ。切に係り諸君善處されん事を同窓生の一人として切望するものである。

「山野邊眞立」

---

## 春の川柳
平吟禮、送別句會

### 席題 花 互選

四點句
散りかゝる花へも一度飲みに來る　新坊

二點句
花の山女優の柄が目に殘り　東天紅
病む妻へ一枝欲しい花の山　一角
花びらを浴びて競馬の土煙り　一角
花形が出て幕切れの賑やかさ　滿壽莊
屋の花蒲鉾小屋に散りかゝり　滿壽莊

一點句
花にそむいて熱烈な戀に泣き　東天紅
早慶は落花を浴びてニット出る　東天紅
花見酒獨身でない身を恐り　紫香
外れて居る一人花見に異を唱へ　新坊
花祭り稚子に仕立てる自慢の子　あきら

### 席題 別れ（別） 互選

三點句
挨拶が濟んでどちらも拭く涙　一角
別々の心を包む夜の街　紫香

二點句
切れ話冷めた杯持餘し　紫香
泣き別れ女心はすぐ嫁ぎ　東天紅
別れともないのは親へ泣を入れ　東天紅
別れともない妓へ女將云ひ含め　新坊

一點句
別段な話もなくて醉つちまひ　滿壽莊
別れ際女むせうに醉つて居る　滿壽莊
別れ際お金の事も念を押し　東天紅
出帆の汽笛に涙更らに湧き　あきら
四ツ角で右と左へ別な用　新坊

### 宿題 轉任 渡邊一角選

榮轉の苦勞は妻の八月腹　滿壽莊
榮轉を喜びに來て泣き別れ　滿壽莊
榮轉の仕事半端を口惜しがり　滿壽莊
今日ッから他國の者と區別され　紫香
轉任ときまつた雨の日が暮れる　文狂
春風に轉任の旅うらやまれ　文狂
轉任は女房の里へ荷を預け　東天紅
轉任の日を奥様は指に結ひ　東天紅
榮轉へ先づ押寄せるお目出度う　東天紅
榮轉を送るホームの人だかり　新坊
榮轉を惜しむホームの人波　新坊
轉任の噂へ服屋靴屋來る　新坊
先生が轉任になる子の不安　新坊

人位
もう一度伸び上つて見る汽車の窓　紫香

地位
轉任の眼を先づ山が悅ばせ　文狂

天位
其前夜別れともない夜が更ける　紫香

軸吟
離任して今更嬉し人情美　一角

---

## 鹽屋の慶事

平町鹽屋山崎與三郎氏長女喜代さんと、江名町會議員吉田正雄氏令弟忠兵衛氏との結婚式は御大喪中の爲に内祝儀をして居つたが、彌々明拾六日縣社子鍬倉神社に於て神前結婚式を擧行する事になつたと、因みに新婦は東京實踐女學校出身の才媛新郎は目下早稻田大學在學中である。遂て披露は拾七拾八兩日尼子亭並びに住吉屋本店に於て行ふ由。

## 郡内將校會議と
## 分會長會議

本拾五日は石城郡内將校會議を催す、會場平町公會堂に於て午前九時より會するもの約八十名であつて午前十一時よりは郡内分會長會議があると。

## 皆川六段來平

柔道六段皆川一貫氏は來る磐城柔道有段者會發會式講演の打ち合せのため十二日來平住吉屋本店に一泊十三日歸京した。

---

## 活耳目

▽文化業者と雖も抗爭をしてならぬといふ事はない、強く、より良く生きんがためには法これを認め正當防衛といふ事がある。悪口をかけぬとのならば公器に個人の讒謗記事もかけぬ事になりませぬか、ホめる事とクサす事はともに私情であつたら悪いとの事なら解せるが、クサすのみが悪いとは聞えぬ事だ、在平諸新聞を觀よ………

▽筆者はかつて某〇〇に於て某人から罵詈悪口されたこの折釋明對抗の辭はあつたが、塲所柄を考いて默した。殊に對手は酒氣をおびて居つた。

▽そんなこんなを抽象的にものした事はあるが、山田「政好」君がどうしたとか何とか明記名指して、かいた事がない、そを勝手に憶測をして山田君と喧嘩をして居るもの〻如く、想像して居る樣だ。かつて同業經濟紙もこの件についてものしたが又金子君？、ものして居る………。

▽金古君も紙上（所謂公器を以つて）仲裁？ケシかけるなら、筆者も紙上で御答ひしよう。

▽一歩讓つて筆者が私憤を公器にものしたとの事は沙汰の限りとならば、そを批判する事もどうかして居る樣だ、山田君からの被害は僕一人ではない筆者山田君と親交であつたが故に山田君を思へばこそ此處に犧牲となつて更めて公憤の筆を進めるそう〳〵いつまで君等が山田君と僕との關係といふならあから樣にイキサツを報道しても良い。

▽人目のツカない所で××××××××、××××、何處でも君の酒氣をオびない時なら會つても良い。但し第三者の介在は絶對に許さぬ、喧嘩「人はいふ」をせない。舊に復せようとする誠意があるなら、紳士的な進退をなすべきでヤブれてダタ……て事をすべきは、母に對する幼兒の心理ではあるまいか。

▽金古君、君も男らしき策のある、文化業者としたら紙上等でケシかけず何とか方法があり相なものだつた、この件では一言もなくして忘れかけた頃紙上での御挨拶とは君の所謂沙汰の限りを自ら裏書するじやないか、遠吠えは目ザワリにあらず、耳ザワリである。

▽再生せる民政紙否金古君の前途を祝すると供に、君が同紙上に抄汰の限りや目ザワリの事をせぬ樣に御願ひて置く。賣られた事今後とも此の件で紙面をケがすかも知れず讀者諸彦あしからず「眞立」

---

## 比佐友香氏
### の御慶び

大阪朝日新聞社勤務比佐友香氏は今回内鄉村區師高萩佳次郎氏長女キヨ子孃を迎ふる事となり、明十六日華燭の典を料亭末廣に揚ぐと、因みに新郎は磐中十八回卒業生にして繪畫に趣味を持つ雄辯家將來を囑望され居り、新婦は磐女出身の才媛であると

---

△櫻を前に御披露目に及んだ平の新妓は林家の小はんと稱するBMさん……竹の家よりおこひ仙臺よりおかる姐さんの妹だそうだ、富美の家からは御ちやら 米京から愈々金時と名乘つて現はれた 谷口の〆勇は平の櫻をアトに仙臺へ去つたは先月の事

## ◎小名濱

▽吉田やのオマツリ小太郎さん一の酉のに公園に上りはからず過つたクーサンと觀音樣のお湯にしけこんだまではよかつたが、あんまり仲よすぎて痴話喧嘩してしまい、思はずクーサンの手にかぢりつき四枚半の齒形を殘したがこれが因で平が切れなけりやよいが？……

▽若竹の宮彌さん裏木戸表木戸を破して愛子島の湯に入浴中だが可愛い〇〇サンとはなれて此の陽氣に、若しや……浮氣でもされやしない？と案じているげな……

▽御心配無用？〇〇サンも仕事も手につかず、休み毎に御見舞に參上するそうだ病は氣からだ『ナニ』その〔キ〕から病氣になつたんだつて——、

不二家の小奴さん〇の家の帳塲にすはつている、兄さんに小名濱轉任早々ノートルを上げているが浮氣名題の兄さん、若しや氣が他所に移りやしないかと日に三度は電話で蹤を聞き一度は必ず顔を見なけりや安心出來ないとか。此陽氣にいやはやむされる事〳〵……。

▽新米の桃ちやん先頭の夜ふけて草野やの表を西の方に通る白いオーバを着た若いメガネの人に飛びついたら、人違いだつたそうなお氣をつけな、開けば白いオーバでメガネをかけて西に住む人は三名あると——オーバぬいたら目じるしをなに〻しますか？ ——そう若竹の勇姐さんのやうに鈴でもつけない……。

▽もとすまやのミドリさんと若竹の喜代治姐さん等しく郡山にくらがいして大谷家で桃太郎喜代治と名つて達者で働いております。お出の節株主諸氏御立寄り下さい。

---

觀櫻歡迎 ◎「平町」◎

石城郡銀行組合

五丁目
東部電力株式會社
平營業所
所長 武田精一

質商
多田井笑次郎
大工町

磐城建物株式會社
電話五一八番

御料理 御旅館
尼子亭
公園 電話二三〇番

株式會社星製藥
磐城配給所
專務取締役 駒木根忠藏

ハ、ハ、ハ、
アスカ自轉車の特賣
惠比壽屋商店
南町 電話六六四番

二丁目裏通り
小松崎洗張店

南町 二丁目裏通
御料理 玉よし
電話四二六番

御料理 御旅館
住吉屋本店
紺屋町 電話一五九番

鮮魚商
宍戸屋 松崎佐平
四丁目 電二一五番

株式會社
百澤商店
四丁目 電話一二番

平町料理屋組合

御料理
竹本
電話三〇四番

疊屋
岡田政次郎
南町 電話五五七番

御料理 天ぷら
越乃家
二丁目裏通 電三三〇

横山彰介商店
驛前通り

三丁目
大黒屋商店
電話(長)一一六番

植木盆栽草花各種
養成販賣
百花園
四軒町 長谷川忠藏

南町
青木寫眞館
電話四二二番

荒物商
大一屋
二丁目 電話一三番

二丁目
坂田金物店
電話一二八番。

田町停車場新通
十字屋洋裝店

藥品染料食料雜貨
渡邊龍功堂
三丁目 郵便局向

御料理
呑喜
田町 電話四六一番

藝妓置屋
甲子
田町 電話四番

西洋料理
カフエータヒラ
一丁目 電話六二〇番

ふでや號
北林商店
二丁目

大村屋旅館
大村一郎
二丁目 電話一七五番

◎春着◎
柄行の清新
柏屋モスリン店
平二丁目・電話一六一

二丁目
清光堂書店
電(長)一三一

藝妓酌婦周旋業
滑川敏之輔
新田町 電話七〇三番

一丁目
和久井屋漆器店
電話四〇五番

一丁目
山家メリヤス店
電話六〇五

ヤマフル釀造元
たひら正宗
山崎合名會社
電話 營業部 一〇 釀造工場 二七

履物問屋
三井商店
二丁目 電話一五六

工業商會
佐々木建一郎
四丁目

日本火災保險株式會社
平代理店
中野甲藏

御料理
青柳
新田町 電話二一〇番

食道樂
大貞
田町 電話一四三番

御料理 御旅館
住吉屋支店
電話一四九番

青麻山
動脈硬化症、腦溢血特効劑
中風靈藥
定價 二週分一、七〇 三週分二、五〇 五週分四、〇〇
本劑は、家傳靈藥にして頗る賣行盛んなり。難病と稱せらる中風症の根治せる實例幾多を以て、其眞價の偉大なるを立證せり。試みに二週分の服用を勸む
代理店 山野邊藥局
平町五丁目角

本年流行の春の洋服が
澤山取揃ひました
◎レンコート ◎春廣三ッ組
◎立エリ上下 ◎防水マント
◎作業服其他各種
平町二丁目
なかや洋服店
電話三〇三番

農業たより
一、牛田式噴霧器各種
一、消毒藥各種
一、カネ印除虫粉特約代理店
理化學研究所製デリス原藥
ネオトン特約代理店
一、石灰窒素肥料
何レモ多數入荷致候間精々勉强可仕候陸續御用命願上候
平町二丁目 電話(長)三番
西村屋藥舖